兵庫県植物分布概観

室井　綽・岡村はた

兵庫県の植物相は他県のどこよりも複雑である。その原因は面積が広く、南北にわたっており、さらに東西に大山脈が走っていることによる。南は淡路の沼島（北緯34度10分）で、黒潮の影響をうけて暖地性の生物相をなし、つづいて山陽沿線は中国山脈の影響を受け暖地性の分子を多くもっている。中国山脈は寒冷で氷の山の山頂などには高山植物に準ずるものが生えている。北は日本海に面し、寒地性の落葉樹を多く有し、県南部と大いに趣を異にしている。以下珍植物、淡路、山陽沿線の東部（摂津）と西部（播磨）、丹波及び日本海方面の但馬に別けてそれぞれの地区の植物相の特色を述べてみよう。

Ⅰ　県下三珍植物及び十珍植物

県下の植物は2200～2300種もあるが、そのうち最も珍らしい植物３種及び、それを含めた10種を選定した。選定基準は大型であること、そして著しい特徴をもち、個体数が多く他県に誇ることのできるもののうち、三珍植物として、コヤスノキ、タジマタムラソウ、カタシボ、続いて十珍植物は上の外、セッピコテンナンショウ、サギスゲ、ノジギク、ナツアサドリ、チトセカズラ、ショウフクジザクラ、クマスギの７種を加えて選定した。

①　コヤスノキ

本県特産の高さ３m内外の低木で、安産樹、すなわち子安の木として知られている。分布は赤穂郡、赤穂市、揖保郡、竜野市、佐用郡、宍粟郡、飾磨郡、神崎郡、姫路市と赤穂郡に接する岡山県和気郡三国村八頭寺山の一部で先ず兵庫県特産といってよかろう。

②　タジマタムラソウ

但馬の各地にあって数多く、５～６月の花時の濃紺色、ルリ色の美しさは大県兵庫を代表する花として誠にふさわしい。園芸植物にならないのが不思議なぐらいである。但馬の人々の園芸植物化への奮起を望む。

③　カタシボ

竜野市特産のマダケの一品、栽培植物であるという理由から格下げも論じられたが、節ごとに皺面と皺なし面とが交代に位置するという世界的畸形の理由から、形態的に価値のあるものとして三珍に入れた。

以上３種のほか

④　セッピコテンナンショウ

広い世界に雪彦山と笠形山にしか知られていない。分布的に珍らしいばかりでなく、栄養的に性が決定する。量が少ないので三珍には入れなかった。

⑤　サギスゲ

エビゴケとともに第三紀末には大繁茂したと思われるが、今日は本県では絶えて僅かに六甲の東部の池に残存している。真白の穂を点綴するさまは、白サギが池辺に遊ぶ遠望を思わせる。エビゴケも著しいが何しろ細かく大衆性がないので除外した。

⑥　ノジギク

県花として有名であるばかりでなく、本県（六甲山）が分布の東限地であり、また北限地でもあるという理由で入れた。県内の分布は赤穂市、飾磨郡、姫路市、明石市、神戸市である。

⑦　ナツアサドリ

本県と岡山県にのみ分布するグミ科植物で兵庫県では夢前川以西に分布する。殊に赤穂郡では普通でツチノコといって果実が食用になるところから親しみも深い植物である。

⑧　チトセカズラ

分布はナツアサドリに似ている。若い葉裏が真紅で、葉に白い大きい斑もあってなかなか見事な蔓性常緑樹である。園芸植物にとり入れたらよいような美事な葉である。赤穂郡上郡町岩木では天然記念物になっている。東限は相生市矢野である。

⑨　ショウフクジザクラ（ナラノヤエザクラ）

美方郡湯村の正福寺境内の古木で、古くは特産の一種と考えたが、建部恵潤氏によってナラノヤエザクラと同一種であるとされた。県下のサクラ中で最も美しい。その後、宍粟郡安富町皆河では大きい４mに余る巨木が幾株も発見された。栽培している株のうちから発見されたものである。

⑩　クマスギ（アシュウスギ）

奥谷国有林でクマスギと呼んでいる。繁殖が大木の枝が下垂して根を下し天然造林となること、また谷側にはなくて峰筋ばかりにあること、材は年輪が細かで比重が大きいので他の杉と大いに異っている。

上のほか、話題のものを簡単に説明しよう。アサクラザンショウは無刺で初め但馬の朝倉から知られたが現在では全国的なものとなり、刺は絶対的なものでないこと、マヤラン、オオヤマジソ、前者は摩耶、後者は宝殿付近から知られて珍らしいが、ただ１回だけしか採集されていないこと、アリマグミは東は静岡辺りまであって他県の方が遙かに多く産すること、ハダカガヤは１本のみの奇型であることと、マヤクサイチゴ、アオヤマウルシ、ルリデライヌワラビは共に特産で珍らしいがいずれも量が少なく大衆性が欠けているので選外になる。アズマツメクサは赤穂市有年だけにあって長さ２cm内外で

余りにも貧弱すぎること、ホウキネズは赤穂郡上郡町の山地にあって美事であるが、固定的なものでないこと、ミツガシワは竜野の雛篭山麓、目下絶滅状態であること、その他、雪彦山のイヨクジャクは天然記念物級のものであるが、保存のためには宣伝すると早速絶滅するということから、故意に選外にした。また宍粟郡のキレコミオシダ、アカメイノデもイヨククジャクと同じ理由で除外した。

Ⅱ　淡路地方

本地方は県内で最も暖地性の植物に富み、シイノキ、タブノキ、ウバメガシ、ホルトノキなどの常緑広葉樹が極く普通に茂り、また、蔓性植物が多く、代表的なものはムベ、イケマ、ハスノハカズラなど、海浜植物にはハマゴウ、ハマアカザ、シチメンソウ、アイアシ、ダンチク、ハマウドなどが各地にみられる。特に最南端の沼島には、ハマグルマ、アオイゴケ、モガシ、アゼトウナ、ヒメユズリハ、ハマナタマメ、マルバシャリンバイ、ルリミノキ、ミミズバイ、キキョウラン、フウトウカズラ、マルバグミ、アワジイヌビワ、ハマヒサカキ、タイミンタチバナ、ホウロクイチゴ、ハマボウ、ボタンボウフウ、ジュズネノキ、オガタマノキ、ツルコウジュ、オオツズラフジ、ハスノハカズラ、ミズスキ、タマシダ（分布の北限地）などがみられる。淡路島内、最高の諭鶴羽山（609m）には山頂に神社があって伐採をまぬがれ、太古の姿が残り、種々の珍種が残存する。ここの特記すべきものは、ホルトノキ、イヌマキ、ルリミノキ、テイショウソウ、イワガラミ、タイミンタチバナ、ミミズバイ、イヌノキ、ホウロクイチゴ、ミヤマシキミ、イヌガシ、ツクバネガシ、カンコノキ、コバンモチ、マテバシイ、ヤシャブシ、サンゴジュ、モチノキ、カンザブロウノキ、タブノキ、シロモジ、マルバグミ、ハマヒサカキ、マルバシャリンバイ、ヒメユズリハ、フウトウカズラ、クスドイゲ、ホンゴウソウ、コウザキシダなどである。

洲本市の三熊山も山頂に城跡があって淡路の代表植物を確保している。すなわちナンバンキブシ、イヌマキ、サカキカズラ、コムラサキ、センリョウ、バクチノキ、カンコノキ、シロバナイナモリソウ、ホソバイヌビワ、ノジギク、ヤナギイノコヅチ、ウバメガシ、クロバイ、タブノキ、ヒメユズリハ、カゴノキ、サンゴジュ、ヤマビワ、ミミズバイ、タイミンタチバナ、ホルトノキ、タラヨウ、イイギリ、ホウロクイチゴ、フウトウカズラ、ズクノキ、アリドウシ、イズセンリョウ、ホシナシヒヨドリの樹木、草本やシダではハチジョウシダ、イシカグマ（分布北限界）、イワヤナギシダ、アマクサシダなどがある。

その南に猪の鼻水源池があるが、この付近には島内でも最も珍種がある。代表的なものにカンザブロウノキ、カギカズラ、ヤナギイノコヅチ、ヒメイタビ、ホウライカズラ、バクチノキ、クスドイゲ、オオイタビカズラ、ことにシダ類には南方系のものが多い。すなわち、クジャクフモトシダ、ケブカフモトシダ、コウザキシダ、イワヤナギシダ、オオバノアマクサシダ、マツザカシダなどがみられる。

上のほか暖地性植物の代表的な分布地は柏原山と灘とをあげることができる。

灘から上灘地方はスイセンの夥しい野生地があって早春の阪神地方へ切花をどしどし送られる。この地方にはハマヒサカキ、アラカシ、ハマナタマメ、ヒメユズリハ、ハマウド、メジロホウズキ、ルリミノキ、アリドウシ、アゼトウナなどがある。また、柏原山にはアリマグミ（多）、ハチジョウキブシ、ナベワリ、カンコノキ、ヤシャブシ、ミスミソウ、スハマソウ、アツモリソウ、クマガエソウ、コクラン、ヒナノシャクジョウ、オモト、ホンゴウソウ、コウザキシダ、ハコネソウ、イワヤナギシダ、クリハラン、クジャクシダ、ホソバノトウゲシバがある。北淡の絵島には、多数のイブキが群生する。その他、オオサクライバラ（仁井）、ヒチメンソウ（中田、州本）、マツバラン（煙島）、カタクリ（先山）、ヒロハテンナンショウ（常隆寺山）がある。なお特にシボチク（皺竹）は本島で変異し、育成されたもので有名である。

Ⅲ　摂津地方

この地方は六甲山、摩耶山などが早くから開けよく調査されている。いずれも花崗岩からなって孤立し、多湿のため特産の珍種がみられる。六甲にはアオヤマウルシ、キバナコツクバネウツギ、ロッコウヤナギ、ヒラオヤナギ、イシカワヤナギ、スミヨシヤナギ、ハナグリ、ホソバナンブスズ、フタタビコスズ、ロッコウミヤコザサ、また摩耶山には、マヤクサイチゴ、マヤランが知られている。

続いて六甲、摩耶の代表的な植物中、暖地性のものをあげると、コベニドウダン、シタキツルウメモドキ、ナツツバキ、シマカンギク、ノジギク、ムサシアブミ（布引）、アリドウシ（布引）、ルリハッカ（布引）、コウライテンナンショウ（布引）、ツクバネガシ、アカガシ、キミノシロダモ、カキノハグサ（摩耶）、ミカエリソウ（摩耶）、フジウツギ（蓬山峡）、ウラジロイカリソウ（一王山）、タイミンタチバナ（須磨寺）、ヤマモモ（鉢伏山）、コバノキブシ（裏六甲）、サイゴクミツバツツジ（紅葉谷）、カシワバハグマ、ユキワリソウ（雌岡山）、イヌウメモドキ、トキワガキ（太山寺）、ヒョンノキ（太山寺）、ナンバンキブシ（多井畑）、シダ類は六甲山が禿山で山火事が多いので貧弱である。主なものはエビラシダ（紅葉谷）、オサシダ、マツバラン（布引）、コモチシダなど、寒地性のものにはミヤマヤナギ、イヌブナ、ブナ（ともに裏六甲）、ミズ

ナラ（西六甲、鉄拐山）、ツノハシバミ（有馬）、シデコブシ（修法ヵ原）、ミツバベンケイ（布引）、タムシバ、ウワミズザクラ、サワダツ（紅葉谷）、ジダケ（六甲山頂）、ホツツジ（六甲）、ミヤマハハソ、メイゲツソウ、サワギク、コウリンカ（六甲山頂）、ムシカリ（紅葉谷）、キクアザミ、サギスゲ（奥池）、アカミイヌツゲ（摩耶）、オオイワカガミなどが主なものである。

この地方は早くから開け、山は伐採され、殆んど原始林をみないが、この地区の代表的な山は丹生山と太山寺背山であろう。

丹生山は昭和24年の山火事で、コウヤマキなどの自然林を焼失したが、あちこちに原生の珍種がみられる。代表的なものには、ホウライカズラ、イスノキ、コカラスザンショウ、キミノシロダモ、フジキ、ウシタキソウ、アカガシ（多し）、ヒキオコシ（大群落）がある。

太山寺背山は摂津第一の自然林で、太古の植物相が最もよく保存されいる。すなわち、リンボク、ウバメガシ、アカガシ、シラカシ、トキワガキ、ハネミノイヌエンジュ、ウラジロガシ、シイノキ（二種）、ことに珍らしいのはイスノキ、ウバメガシなどの巨木が多数にある。その間にはホウライカズラ、タイミンタチバナ、ウラジロノキ、ウシタキソウ、コショウノキ、イズセンリョウなどがある。

また、この地方の珍らしいものにはアリマグミ、タチガシワ、ホッスガヤ、ムラサキ、アケボノアセビ、エビラシダなどがある。また雑草ではムラサキネズミノオは神戸、明石を経て姫路東部まで拡って分布の西限をなすが極く普通の路傍雑草である。

なお、早くから貿易で開け外国との交流が行なわれたので、外来の樹木の大きいのが多く、ニレツバスイショウ、セコイア、チャンチン、ユーカリ類、フウ、トウカエデ、ナンヨウスギ、センダンバノボダイジュ、フェニックスなどの巨木が方々でみられる。

Ⅳ　播磨地方

この区域の最も注意すべき地方は市川以西のいわゆる西播地方である。この地方の特産種にはコヤスノキ、ルリデライヌワラビ（船越山）、オオヤマシソ（石の宝殿）、セッピコテンナンショウ（雪彦山、笠形山）、バンシュウゴキダケ（三濃山）、ミノヤマザサ（三濃山）、ハリマダイミョウ（網干）などである。この西播地方と岡山県の東部だけにある植物にはナツアサドリ、チトセカズラ、キビノクロウメモドキ、フサナキリスゲなどで、この地域が分布の西限になるものにはイワシロイノデ、アズマツメクサ、モチツツジ、ヒトツバハギなどがある。また県内ではこの地域にだけみられる暖地性の植物にはヨコグラノキ、コバノチョウセンエノキ、タキミシダ、アオイゴケなどである。この地方を代表するのは家島、生島、室津、佐用郡久崎、鶏篭山、船越山、雪彦山、書写山、法華山、奥谷の音水、赤西両国有林などである。

家島は姫路沖にあって、殆んどが農耕されているが、家島神社の境内はよく茂り、自然の植物相をうかがうことができる。この付近にはタキキビ（群）、ノブノキ（群）、ウバメガシ（巨木）、タイミンタチバナ、マルバグミ、ヤマモモ、リュウキュウハゼ、クサスギカズラ、ハマウド、クスドイゲ、シャシャンポ（巨木）、タブノキ、アリドウシ、ヒメユズリハ、カゴカシがある。

生島原始林は暖帯の代表樹相をなす島として早くから天然記然物に指定されてきた。巨木にはイブキビャクシン、スダジイ、ツブラジイ、モチノキ、カクレミノ、ヒメユズリハ、カゴノキ、タブノキがあり、これら常緑樹上にムベ、アケビなどの大蔓性のものが生え、下木としてセンリョウ、マンリョウ、イズセンリョウ、カラタチバナ、ジュズネノキ、アリドウシがある。草本にはハマウド、イワダイゲキ、イソヤマテンツキ、アイアシなどがある。この対岸にはユウスゲの群があり、夏の夕方に美しく咲き誇る。

船越山は山麓に瑠璃寺があって、スギの巨木があり、天然林がよく保たれてきたが、近年伐採が烈しく、次第に淋しくなってきているが、特産の植物、ルリデライヌワラビ、ハリマイノデをはじめ、オチフジ、ニシノヤマクワガタ、クロタキカズラ、ヨコグラノキ、アズマシロガネソウ、キバナサバノオ、ユクノキ、キクガラクサ、ウエマツソウ、ユキワリイチゲ、ナンゴクウラシマソウ、ベニカヤラン、クモラン、ヨウラクラン、スズムシソウ、ナツアサドリ、ヒメノヤガラ、チトセカズラ、イヌブナ、アズサ、コハウチワカエデ、ミヤマトベラ、オオバクロモジなどがある。ことに珍らしいのはシダ類の極めて豊富なことである。代表的なものはミツイシイノデ、イワシロイノデ、イノデモドキ、サカゲイノデ、ツヤナシイノデ、オンガタイノデ、カタイノデモドキ、アカメイノデなどのイノデ類をはじめタカオシケチシダ、ヒロハヤブソテツ、ノコギリシダ、ミヤマノコギリシダ、オオクジャク、ウスヒメワラビ、タキミシダ、イワヤシダ、アオネカズラ、コタニワタリ、シラガシダ、シロヤマシダ、サジラン、ヒメサジラン、ナツノハナワラビ、オオヒメワラビモドキなど珍らしいものばかりである。ここの中腹の池の谷には風穴があって空洞中の冷たい空気が多量の水蒸気に被われて湿度が高く蘚苔、地衣の生育が特に旺盛である。その付近にはキレコミオシダなどが群って特異の景観を呈する。

雪彦山は石英粗面岩の奇岩からなる山塊で山頂及び裏川の谷に沿って珍らしい植物がみられる。ことにセッピコテンナンショウの発見地として、有名で現に当山と笠形山とに知られている。続いて山麓のイヨクジャクは分

布の北限界で、正に天然記念物級である。また、コミヤマスミレは本県内の唯一の産地で、葉に美しい白斑のある美しい種である。その他、代表的なものにはツクバネ、タムシバ、ホオノキ、ウスギヨウラク、イナモリソウ、ミヤママコナ、ベニドウダン、イワナシ、イブキシモツケ、フカゲナンキンナナカマド、ヒカゲツツジ、ホツツジ、コオニユリ、ウチョウラン、セッコクがみられる。頂上付近にはイワタケ(付近にはない)、ミヤママコナ、コバノクロウメモドキ、オオバアサガラ、アケボノツツジ、イヌブナ、イワカガミ、ミヤマシキミ、ゴカヨウオウレン、オオバチドメ、ホンシャクナゲ、ヒメコマツ、オチフジ、ミカエリソウ、シンジュギク、カツラ、トチ(大木)がみられる。北斜面から谷川に沿ってミヤマウツボ、イワタバコ、イナモリソウ、ミヤマミズ、ミズタビラコをはじめ、シダ類の繁茂が著しく、イワオモダカ、ジンジソウ、オシダ、ナチシダ、ヒカゲワラビ、ヨコグラヒメワラビ、イヨクジャク(県下ではここしか発見されていない)、アオネカズラ、ビロウドシダ、ツルデンダ、サジラン、ミヤコイヌワラビ、タキミシダ、コタニワタリなどはじめ、100種を数えることができる。

鳥居をくぐり右へ登ると賀野神社があり、ここの山道もよく茂る。主木はモミ、ツガの針葉樹とツクバネガシ、アカガシ、ウラジロガシ、ウワミズザクラ、リンボクの高木、ホツツジ、ミヤマガマズミ、イズセンリョウ、アブラチヤン、コバンノキの低木、イナモリソウ、ミヤママコナ、オウレン、シライトソウ、フシグロセンノウなどの草本がみられる。

笠形山もよく茂り、コヤスノキ(分布北限地)、セッピコテンナンショウ、クマガエソウ、クリンソウ、コクラン、ホコバスミレ(長野県、九州中部にのみ知られていたが、段ガ峰、大河内町にも知られる)などの珍らしい植物が知られる。

姫路北部の書写山はコヤスノキ(分布の東限界)、ナツアサドリ(分布の東限界)、山頂一帯にはナギザサ(分布の南限界)がある。山頂は杉、桧とアカガシ、シラカシ、ツクバネガシがよく茂り、ラン科のヨウラクラン、クモランなどが古木に着生する。また、地衣も極めて豊富である。さらにまた、シダは大群落を形成し、珍種、稀種も多い。マルバベニシダ、ウチワゴケ、ホソバノイヌワラビ、シケチシダ、ヒメワラビ、イワヒメワラビ、クマワラビなど特に多い。

またその東部の増位山にもコヤスノキ、ウラシマソウ、ムサシアブミなどがあり、外来種では旧姫路市内を中心にトゲミノキンポウゲがもう30年も前から知られているが、市外にあまり出ないのも不思議である。

播州の最西端の赤穂郡にはチトセカズラ、コヤスノキ、ナツアサドリ、ホウキネズの大群落があり、相生市矢野字森にはコヤスノキ、赤穂郡上郡町岩木にはコヤスノキ、チトセカズラが天然記念物として保護されている。この樹林中にはホンゴウソウが点々とみられる。

この地方の代表的な山は三濃山で、前記のコヤスノキを始め、チトセカズラ、フジキ、ユリワサビ、ヤマフジ、ヒメアオキ、ナツアサドリ、アオネカズラ、ビロウドシダなどが、また、赤穂郡有年にはリュウキュウコザクラ、アズマツメクサ、ミツバツチグリがあり、広分布種であるヤマツツジが皆無という珍しい区域である。

この北方の佐用郡久崎町滝付近の生物相は古くから注目されている。この辺の珍植物はコヤスノキ、チトセカズラ、キビノクロウメモドキ、セツブンソウ、ヒメウツギ、キジョラン、シタキツルウメモドキ、キミノコバノガマズミ、アオネカズラ、ツルデンダ、ミヤコヤブソテツ、ムラサキ、ユキワリソウで、山陽線上郡駅から久崎に通じる沿線には蛇紋岩がところどころ露出し、その辺にはヒメウツギ、イワガサを始め、ニリンソウ、イカリソウ、ナラガシワなどが特に多い。

その東部、竜野の雞籠山は市の北部にあって付近の松を主体とする林相と著しく違った景観でスダジイ、アベマキ、リョウブの巨木を主体としてよく茂り、その間にイズセンリョウ、クマノミズキ、ヤブツバキ、アセビ、シロバナウンゼンツツジ、ザイフリボク、カラスザンショウのかなり大きいものがある。また、ミツガシワの西限地として知られている。シダ類ではイワヤナギシダ、クサソテツ、ヘラシダなどが知られる。またその東部の屏風岩にはマツバランがあったが心ない人によって全滅させられたのはおしい。この付近にはヤマツツジの6月下旬に黒赤色の花をつける中井博士のサンヨウツツジの群落があって夜のホタルとともに名所になっている。

奥谷の国有林は県内で最も広い範囲に天然林が残されている。ここは赤西、音水の両国有林からなっている。先ず暖地性のもののうち山腹以下にはヤブツバキ、ナラガシワ、ノグルミ、クマミズキ、クロバイ、クマスギ(アシウスギ)、ネコノチチ、ビロウドイチゴ、カワラハンノキ、渓谷中にはアサガラ、エドヒガン、ヨグソミネバリ、オオイタヤメイゲツ、ヒナウチワカエデ、オオモミジ、ヤマグルマ、イイギリ、ユクノキ、オオバアサガラ、ベニドウダン、タンナサワフタギ、ハネミノイヌエンジュ、コバンノキ、ヒトツバハギ、ダイセンヤナギ、サワダツ、ヒメウツギ、ユクノキ、コハクウンボク、ミカエリソウ、ウラジロウツギ、ウスギヨウラク、草本にはサワルリソウ、ハルトラノオ、ギンバイソウ、ミヤマネコノメソウ、オオヤマハコベ、ヒカゲミツバ、ヒナノウスツボ、オオキヌタソウ、タイミンガサ、オタカラコウ、イヌヤマハッカ、オチフジ、ニシノヤマクワガタ。

寒地性植物中の木本にはブナ、イヌブナ、ミズナラ、アサダ、サワシバ、ツノハシバミ、メグスリノキ、アサノハカエデ、ハクウンボク、ムラサキマユミ、オヒョウ、サワグルミ、エゾエノキ、クロソヨゴ、サラサドウダン、草本にはザゼンソウ、シロバナエンレイソウ、ラショウモンカズラ、イワウチワ、カジカエデ、ルイヨウボタン、ルイヨウショウマ、モミジガサ、テンニンソウ、スミレサイシン、カメバソウ、タマブキ。

シダ類にはクラガリシダ、イワイタチシダ、サイゴクベニシダ、オオバノハチジョウシダ、ヒロハヤブソテツ、カラクサシダ、オニヒカゲワラビ、オシャグジデンダ、ミヤマイヌワラビ、ハクモウイノデ、キヨタキシダ、サトメシダ、イワイタチシダ、フジシダ、シノブカグマ、イワヤシダ、オオクジャクシダ、ハリガネワラビ、カラクサイヌワラビ。

奥谷の南部、波賀町不動の滝は多くの珍植物がみられる。代表的なものはシコクスミレ、クリンソウ、ヨウラクラン、ノダイオウ、ヒロハノコンロンソウ、アカネスミレ、オカスミレ、イワウチワ、オオタチツボスミレ、スミレサイシン、エンレイソウ、フジシダ、オオフジシダ、イワイタチシダ、オシャグジデンダ、ヤマグルマ、ヒカゲツツジ、サジラン、ニシノヤマクワガタである。

千ヵ峰は西播の最高峰で、山頂は一面チュウゴクザサで被われているが、多くの植物が残っている。山麓の神社にはタブノキの大木があり、暖地性の種々のものがある。代表的なものをあげると、ホソバヤマハハコ、オタカラコウ、ミカエリソウ、タンナサワフタギ、ホンシャクナゲ、ジンヨウイチヤクソウ、ヨロイグサ、イタヤメイゲツ、アオハダ、ユズリハ、ハイシキミ、ヤマフジ、ウワミズザクラ、コチャルメルソウ、チャルメルソウ、キクザキイチリンソウ、ヤマグルマ、フサザクラ、ツノハシバミ、オオイトスゲなどがある。

東播は山が低く禿山でほとんどが田畑で、珍しい植物がないが、加古川、明石間の水溜池には大型のオニバスが群り、その間にミスミイ、サデクサ、セイコノヨシ、アサダ、ジュンサイ、ガガブタ、トチカガミが群生する。

田の畦にはムラサキネズミノオなどが大塩付近までみられる。ジュンサイの採集時には多数の業者がタライを浮べてとり、壜詰などとして市場に出す。加古川上流の印南郡上荘、加西郡北条辺にはノハナショウブが散生する。

なお、多可郡西脇付近を中心として、（海岸線より約50キロもの奥地）海岸性のウバメガシ、ムベの大群落があり、かつて海辺であったことをよく証している。また海岸地帯には姫路東方10キロの大塩、宝殿を中心として、凝灰岩質石英粗面岩からなり、特産の植物がある。これにはオオヤマジソ、ホウデンザサ、ハリマメダケ、ケナシヤシャダケがある。また、ノジギクが大繁茂する。この菊は白色が殆んどであるが極く稀れには黄色のキバナノジギクがある。本種は兵庫県の県花として著しい存在で、東は六甲から西は室津まで生える海岸性の植物である。殊に六甲山は分布の東北限界である。その他、アテツマンサク（神崎郡寺前村上小田峰山）などは特記してよかろう。

海岸植物は貧弱である。近年、全般にわたって工業が発達し、植物は急速に絶滅しつつある。ことに戦後、塩田が垂下式となって塩田付近の植物がすっかり全滅した。また加古川、姫路、赤穂の沿線は埋立作業が著しく、どんどん植物が減っていくことは惜しいことである。

東部よりの海岸ことに明石以東は殆んどみるべきものがない、ただ、今、ハマゴウが一の谷に1株、舞子に数本が残っているだけで他のものは殆んど海岸植物というようなものがない。現在昭和35年春は明石から須磨の間にヒトモトススキ、ツワブキが繁っているが、いま行われつつある鉄道の複々線工事ですっかり姿を消すことであろう。

姫路を中心としたところでは大塩から白浜までの地域で、砂地にはコウボウシバ、オニシバ、ハマゴウ、ハマネナシカズラ、ハマヒルガオ、オカヒジキ、ハマボッス、ウラジロアカザがあり、堤防にはノジギク、ハマダイコン、ツルナ、クサスギカズラ、ケカモノハシ、オニヤブソテツ、シロノセンダングサ、クコ、テリハノイバラ、ハマエノコロ、ハマアオスゲ、ハマスゲ、ノラニンジン、湿地にはフクド（ハマヨモギ）、ウラギク、アイアシ、トキワススキ、ムラサキネスミノオ(分布の西限)、ハマツメクサ、イソボウキ、ハマサジ、ハマゼリ、ハママツナ、シオクグ、ホソバノハマアカザ、ケカモノハシなどがある。特に珍らしいものにはヒロハマツナ（妻鹿東部の白浜）があり、種子が白色で葉が多肉扁平で分布の東限になっており、今までは広島までしか知られいなかった。

赤穂から相生付近までも貧弱ではあるが、最もよく残されたところであろう。珍らしいものにはハマウド、マルバシャリンバイ(鰯浜)、イワダイゲキ、ダンチク(鰯浜に1か所のみ)、ウバメガシ(室津)、ヒトモトススキ、トキワススキ、ノジギク、シマカンギク、クコなどである。千種川下流の千鳥浜には無数のハマボウフウが群がり、4月の開花期は著しい。相生湾の砂地にはウンラン、オニシバ、コウボウムギ、コウボウシバ、湿地にはシオカゼテンツキ、シバナ、イソヤマテンツキ、ホソバハマアカザ、キスゲ、イソボウキ、ハママツナなどがある。

V　丹波地方

この地方の特殊性はスギの植樹がよく行なわれ、渓谷

辺には広葉樹が多く、山腹にはいわゆる熊笹と呼ばれるヤネフキザサ、キンキザサ、チュウゴクザサが一面に生えている。山頂にはネマガリダケの3mに余るものが生えて特殊な景観をなしている。この地方の特産種にはハダカガヤ(天然記念物)、キミノナツグミ(栽)、キスジチュウゴクザサなどがある。

小金嶽の代表的な樹木にはゴマギ、コベニドウダン、ウスギヨウラク、ツクシシャクナゲ(ホンシャクナゲ)、カジカエデ、フウリンウメモドキ、ウラジロウツギ、ヤマグルマ、ヒメコマツ、ホツツジ、クロソヨゴ、アクシバ、藤本ではクロタキカズラ、コクワ、ウラジロマタタビ、オオクマヤナギ、ミヤマクマヤナギ、オオツヅラフジ、コウモリカズラ、草本ではコバノフユイチゴ、ウラジロイカリソウ、ヒメケイラン、オタカラコウ、モミジバハグマ、ヤマホウズキ、クリンソウ、オオイワカガミ、イワウチワ、ミツバベンケイ、ツルゴカヨウオウレン、ヤマシャクヤク、オニノヤガラ、ヒトツボクロ、クロバナヒキオコシ。シダ類にはアスヒカズラ、オサシダ、ナライシダ、カミガモシダ、オオフジシダ、シノブカグマ、キヨタキシダ、コバノイシカグマ、ヌカイタチシダマガイなどがある。

続いて妙高山の代表的な植物にはケサンカクヅル、スミレサイシン、トリガタハンショウヅル、コベニドウダン、クロソヨゴ、シシラン、ウスギヨウラク、コバンノキ、タブノキ、カミガモシダ、オサシダがある。また、ここより南、小金嶽に通ずる渓流にはサツキ、ユキヤナギ、カワラハンノキを産する。

なお、この地方の珍らしいものには夏に葉を落とすオニシバリ(ナツボウズ)、シシラン、クリンソウ、カメバヒキオコシ、ホンゴウソウ、クロタキカズラ、ムラサキツリバナ、ノハナショウブ、オシャグジデンダ、サデクサ、ミズワラビ、カミガモシダ、オニバス、キバナアマナ、セツブンソウ、ルリイチゲ、オグラコウボネ、ホソバアオハダ、ユキヤナギ(大山村自生)などがある。

Ⅵ 但馬地方

この地方の特産物には5月下旬の但馬路を美しい紫花で飾るタジマタムラソウやヤマザトタンポポ、ツノナシヤマザトタンポポなどがある。

この地方の代表的な山には氷の山、扇の山、床の尾山、三川山、妙見山などがある。

氷の山(1510m)は本県最高の山で、山麓にはコウリヤナギの栽培が盛んで、谷間にはウラジロガシ、シラカシ、モンゴリナラ、フウリンウメモドキ、キミノシロダモ、フサザクラ、ハイイヌツゲ、メグスリノキ、テツカエデ、アサクラザンショウ、オニシバリ、カラスザンショウなどがあり、中腹より山頂にかけて、ネマガリダケが殆んどを占めている。その間を切り開いて山道がつけてあるが、その山道の西側にはコミネカエデ、エゾユズリハ、ゴゼンタチバナ、オオシンヨウイチヤクソウ、イワキンバイ、チョウセンシモツケ、ヒメモチ、オガラバナ、クロヅルなどが見られる。ネマガリダケ群叢の間にはブナ、イヌブナの巨木が所々にみられ、その幹の凹みにはヤシャビシャク、オシャグジデンダなどが着生する。高木林が絶えた甑岩(こしきいわ)の岩場にコケモモ、イワキンバイ、オオジンヨウイチヤクソウ、チョウセンシモツケ(東限界)、コメバツガザクラなどのいわゆる高山植物が生えている。山頂はヨツバヒヨドリ、オオバニガイチゴの大群落となる。この中にオオダイトウヒレン(西限界)、ネコヤマヒゴタイ、ダイセンキャラボク、ヤチスゲ、ミヤマイヌノハナヒゲ、ツバメオモト、エゾノヨツバムグラ、ミヤマヌカボ、ヒメスギランなどの残留種が豊富にみられるのはおもしろい。このなかに、特記すべきアズサカンバがある。頂上から尾根を東に下ると古生沼(こせいぬま)(牧野博士命名)があって、ここにはコケモモ、アカモノ、イワナシ、ツマトリソウ、マイヅルソウ、バイケイソウ、クロミウスノキ、ハシバミ、ヤマドリゼンマイ、コバノトンボソウ、マンネンスギ、キソチドリ、オヤマリンドウ、ヒメミズゴケ、ミズゴケ、クロソヨゴなどの群落が発達しており、さらに300m下るとネマガリダケの群落中に湿地帯が広がり、高山植物群落に似た景観を示し、ここが氷の山第一の見学の場所である。ゴゼンタチバナ、イワナシ、オヤマリンドウ、ツマトリソウ、マイヅルソウ、バイケイソウ、キソチドリ、コケモモ、アカモノ、ヒメスギラン、サバノオ、シラヒゲソウ、コバノトンボソウなどがみられる。

氷の山の入口の関宮は蛇紋岩の広大な地域で、代表的なものにはタジマタムラソウ、オニナツハゼ、カシワ、ガンピ、メギ、イブキシモツケ、モンゴリナラなどがある。

妙見山の著しいものは当地発見のミョウケンママコナ、ミョウケンヤマブドウをはじめ、ルイヨウボタン、タイミンガサ、ギンバイソウ、ヒカゲミツバ、サンカヨウ、オオヤマハコベ、モミジカラスウリ(北限界)、オオカニコウモリ、オオイワカガミ、ザゼンソウ、ミヤマクマヤナギ、ヒメガマ、ツシマナナカマド、エゾエノキである。

なお、但馬地方の海岸にはトウテイラン、スナジノギク、ワカサハマギクが特産に近い。また北方系の珍らしいものにはハマナスがある。この地方の山地一帯にはハイイヌツゲ、クロタキカズラ、テツカエデ、シラカシ、フサザクラ、ヒウガミズキ、シラネワラビ、オオバショリマ、オニシバリ、ヤブハギ、ムラサキ、ムラサキマユミ、アサクラザンショウがみられる。

特にアサクラザンショウはサンショウの枝に刺がない

もので、朝倉地方の特産として地名をとって古くから知られていたが、今日では日本に広く栽培されている。このアサクラザンショウは氷の山山麓の関宮町丹戸（旧熊次村丹戸）の高木林下には無数に稚苗がみられるが、3年生ぐらいまでは刺が一面にあるが4年目ぐらいから次第に少なくなり、全くないもの、少しだけ残るものになる。現地ではアサクラザンショウとヤマアサクラザンショウは区別ができない。

また、香住海岸には中国渡来のセンダンバノボダイジュが野生化している。かつてこの種子で「じゅず」を造っていたもので、仏教の布教が盛んであったことを物語っている。

Ⅶ 帰化植物

県内で帰化植物の著しいのは瀬戸内海沿岸地方である。そのうち珍らしいものを拾ってみると、ジョンソンモロコシ、キキョウソウ、コエンドロ、マツバゼリ、アメリカフウロ、西洋コヒルガオ、西洋マツムシソウ、シナガワハギ、ロボウガラシ、クワモドキ、ヤセチャヒキ、ムギクサ、ムラサキウマゴヤシ、コシミノナズナ、アカダカズラ、アレチニシキソウ、クリノイガ、イヌムラサキ、マメカミツレ、オオキジムシロ、ハイアオイ、キクノハアオイ、ホソバカラスノエンドウ、ニンジンモドキ、ヒバリノチャヒキ、マルバツルノゲイトウ、ヨツバハコベ、ヒゲナガスズメノチャヒキ、ニコゲヌカキビ、ナガエノセンナリホウズキ、ホソバウンラン、アメリカキンゴジカ、ボロギク、アレチヂシャ、ヒメハマチャヒキ、セイヨウベニバナ、ハマデラソウなどで、これらは近年渡来した。

郷土の植物文献

纒った文献及び略号

1. 兵博＝兵庫県博物学会会誌，1～20号（1931～41）
2. 県博＝兵庫県中等教育博物雑誌，1～9号(1938～43)
3. 兵生＝兵庫生物，兵庫県生物学会会誌，1巻1号～3巻5号（1948～60）
4. 郷土の生物（1949）兵庫県生物学会編，神戸新聞社発行
5. 氷上の自然（1949～53）氷上郡生物学会，1～2集，氷上郡文化協会発行
6. 兵庫県生物誌（1956）兵庫県生物学会編，神戸新聞社発行
7. 六甲の自然（1959）室井綽ほか編，六月社発行
8. 兵庫の自然（1960）兵庫県生物学会編，のじぎく文庫発行

阿部　良平；姫山と生島，兵博，1（1931）

荒木　英一；三丹地方現世植物区系，野外植物，4の1（1942）

安西　義正；郷土の切花，郷土の生物（1949）

石川，川崎；六甲山植物目録（Ⅱ）兵博，4（1932）

石川栄之助；昭和8年度六甲山植物採集の収穫，兵博，8（1934）

〃　；西摂地方に於ける植物分布調査目録，兵博，10（1935）

稲田　又男；兵庫県下におけるウラボシ科，兵博，16（1938）

〃　；兵庫県シダおぼえ書き，1～5，兵生，2の1～3の3（1952～5）

〃　；県下のシダ，兵庫県生物誌（1956）

〃　；兵庫県シダ植物誌（1958）

井上　勇；摩耶山で採集した木本類目録稿，兵博，2（1931）

井上　三義；兵庫県下の珍木三種，柏原高校会誌 Natura，No. 7（1952）

〃　；兵庫県植物目録（1953）

〃　；氷上の巨樹，名木，ひかみの自然，No. 2（1953）

〃　；分布詳説兵庫県植物目録，裸子植物目録，柏原高校会誌，Natura，No. 9（1953）

〃　；但馬氷ノ山の植物，上同，No. 16（1959）

〃　；初夏の蘇武，瀞川，妙見山植物採集記，上同，No. 16（1959）

〃　；分布上注目すべき氷上郡産植物2，3について，上同，No. 17（1960）

岩槻　邦男；柏原町におけるしだ植物の探究，上同，No. 7（1952）

岩谷　成彦；雪彦山植物採集記，兵生，1の4（1950）

上田　喜久雄；兎和野原のレンゲツツジ，郷土の生物（1949）

臼井　元弘；粟鹿峰のイワヤシダ，柏原高校会誌，Natura，No. 9（1953）

江越　千代子；淡路植物採集行，兵生，3の1（1955）

江越，岡村；神戸税関付近の帰化植物，兵庫県生物誌（1956）

江越　千代子；曽根大塩ノジギクを探るの記，兵生，3の2（1956）

〃　；カタシボチク調査の旅，兵生，3の5（1959）

大浦　茂樹；県下の植物天然記念物，兵庫県生物誌（1956）

大沢　政雄；ナガバジュズネノキ及びアテツマンサクについて，兵博，10（1935）

大坪　長三；ナツアサドリとその分布，兵博，6（1933）

大坪　長三；分布上注意すべき本県産植物，兵博，15 (1938)
岡村　はた；神戸税関付近の春の外来植物，兵生，2の2 (1952)
〃　；神戸税関付近の秋の植相，兵生，2の3 (1953)
金沢　竜；妙願寺の御葉付イチョウ，1〜2，兵生．3の4〜5 (1958〜9)
川崎　正悦；六甲山植物目録，兵博，1 (1931)
〃　；六甲及び摩耶山に産するスミレ科植物，兵生，1の2 (1948)
〃　；六甲山に産する暖地性及び寒地性植物，兵生，1の1 (1948)
〃　；六甲山に産するシダ植物，兵生，1の3 (1949)
〃　：広田神社境内のツツジ，郷土の自然 (1949)
〃　；六甲山及び摩耶山に産するキク科植物，兵生，1の4 (1950)
川中　菊市；但馬植物目録，1〜3，兵博，17〜20 (1939〜41)
〃　；但馬植物記，兵博，20 (1941)
川中，建部；新種キバナサバノオに関する雑報，兵博，20 (1941)
河野　好博；淡路島の暖地性植物，寒地性植物，その他，兵生，1の5 (1951)
河原，林，永井；六甲連山の植物，兵庫県生物誌 (1956)
北村　四郎；蛇紋岩地帯の植物相，兵生，1の5 (1951)
〃　；兵庫県の植物，兵生，1の5 (1951)
〃　；妙見山，氷の山の植物，兵生，2の2 (1952)
木下　貞祐；こうやまき，郷土の自然 (1949)
木村　正司；明石公園植物誌 (1959)
陸井　初治；有馬植物採集会参加記、兵博，4 (1932)
好田　一市；播磨，法華山付近の植物，兵博，3 (1932)
神戸　市；六甲山風景計画の基本問題 (1955)
神戸市産業課；神戸市背山植物調査書 (1936)
神戸市農政局；六甲山系植物誌 (1955)
神戸電鉄；沿線の自然 (1958)
児玉，瀬戸，山中；近畿地方シダ類目録 (1950)
小早川利次；有馬郡の植物，兵博，15 (1938)
〃　；有馬郡の植物概況，兵博，17 (1939)
近藤　浩文；瀬戸内海沿岸（兵庫県の植物）について (1957)
〃　；西宮市内の帰化植物 (1958)
佐藤　茂樹；寺前植物採集報告，兵博，12 (1936)
佐藤　茂樹；天然記然物コヤスノキを訪ずねて，兵生，3の3 (1956)
島崎　楽；播磨植物知見，兵博，13 (1937)
鈴木　時夫；六甲山の極盛相森林，大分大学紀要，自然，No. 6 (1957)
生物学会；兵庫の自然 (1960)
竹田保勝会；立雲会 (1937)
建部　恵潤；播州鹿が壺植物植物目録，兵博，19(1953)
〃　；播磨船越山植物目録，兵博，11 (1936)
〃　；望郷の頌，兵博，11 (1936)
〃　；宍粟郡産植物報知，兵博，14〜17 (1937〜1939)
〃　；船越山植物採集を終えて，兵博，18 (1939)
〃　；姫山樹林の植物 (1950)
〃　；宍粟郡船越山植物概要，兵生，2の2 (1952)
建部，稲田；宍粟郡音水，赤西両国有林の羊歯類，兵生，2の3 (1953)
建部、内海；兵庫県宍粟郡船越山採集会記録，兵生，3の1 (1955)
〃　；兵庫県宍粟郡奥谷村春の植相、兵生、3の1 (1955)
建部　恵潤；兵庫県朝来郡田路 クモノスシダ採集記，兵生，3の1 (1955)
〃　；コヤスノキ，兵庫県生物誌 (1956)
田代　善太郎；奥谷国有林植物概観，兵博，3 (1932)
〃　；千ガ峰の植物相，兵博，6 (1933)
〃　；雪彦山植物概要，兵生，2の2 (1952)
〃　；兵庫県内植物採集日誌，兵生，2の2 (1952)
〃　；三丹地方の植物生態地理学的考察，兵生，2の2 (1952)
〃　；三丹フロラを組成する要素，兵生，2の2 (1952)
田中　兼治；ウバメガシとサルキン，兵生，2の1 (1952)
田中美智太郎；但馬植物分布調，兵庫教育，480 (1930)
〃　；但馬植物目録 (1937)
土橋　忠重；朝倉山椒の出生地，兵博，13 (1937)
〃　；但馬の動植物分布の特徴，但馬自然界 (1947)
〃　；植物採集地としての来日岳，但馬の生物 (1948)
〃　；柳行李，郷土の自然 (1949)
津名高校生物班；三原郡灘及び沼島，生物採集報告 (1951)

坪井　近三；播磨植物目録（追加）兵博，18（1939）
中井　源；但馬植物小記，但馬の生物（1950）
中村　博兆；兎和野ガ原採集記，（1948）
〃　；白石島採集記，上同（1948）
中原　辰男；奥谷採集に参加して，兵博，3（1932）
〃　；鶏籠山植物目録，兵博，3（1932）
中山　発郎；奥谷国有林について，兵博，3（1932）
西原　礼之助；兵庫県植物雑記，兵博，16（1938）
西本　俊雄；雪彦山採集行；兵博，3（1932）
〃　；奥谷国有林植物目録，兵博，3（1932）
〃　；雪彦山の植物，兵博，3（1932）
〃　；県下の珍植物 ナツアサドリを発見して，兵博，6（1933）
林　中　元；六甲の草と虫（1954）
林　弥　栄；播磨国鶏籠山植物誌，野外植物，5の1（1943）
樋口　繁一；有馬郡永沢寺山植物採集記，兵博，13（1937）
〃　；城崎郡余部地方植物採集記，兵博，13（1937）
〃　；多紀郡植物採集会報告，兵博，15（1938）
〃　；有馬郡生物誌，（1950）
〃　；丹波の生物，（1952）
広江　美之助；印南郡大塩町の塩田付近の植相，兵生，2の2（1952）
兵庫県博物学会編；播磨植物目録（1935）
福田　菊市；ヒメキクバスミレ，兵生，3の3（1956）
〃　；但馬朝来郡産　スミレ属，兵生，3の3（1956）
福永　利雄；七種山植物目録，兵博，8（1914）
藤原　悠紀雄；県花ノジギク，兵庫県生物誌，（1956）
〃　；兵庫県におけるノジギクの分布について，兵生，3の3（1956）
藤本　義昭；兵庫県における海岸植物の分布について，兵生，1の3（1949）
〃　；姫路市白浜町の塩性植物について，兵生，1の5（1951）
〃　；イネ科植物図説，1～2　兵生，2の2～3（1952）
〃　；ドクムギ属の分類，兵生，2の1（1952）
細見　末男；粟鹿山採集記，兵博，11（1936）
〃　；氷上郡の植物，氷上の自然，1（1949）
堀　勝；高仙寺山植物採集記，兵博，9（1935）
松沢　重太郎；淡路洲本町　三熊山の木本植物，兵博，1（1931）
〃　；植物学上より観たる三熊山（1948）
三木　順一；ホコバスミレ県内に発見，兵生，3の3（1956）
〃　；波賀町不動の滝のシコクスミレを訪ずねて，兵生，3の5（1959）
村田　源；近畿地方植物誌，1～5，兵生（1954～9）
室井　綽；赤穂の植物，兵博，8（1934）
〃　；播磨国植物分布概要（1934）
〃　；妙高山植物目録，兵博，6（1935）
〃　；コヤスノキ，兵博，6（1935）
〃　；播磨植物目録（補1）兵博，11（1936）
〃　；県下で発見された動，植物，郷土の生物（1949）
〃　；雪彦天南星発見当時の思い出，兵生，1の4（1950）
〃　；兵庫県の桜を語る（1951）
〃　；郷土のため生島の現状を嘆く，播磨，21（1952）
〃　；氷ノ山の植物についての新知見，但馬生物（1956）
室井，藤本；県下の植物分布，兵庫県生物誌（1956）
室井　綽；天然記念物竜野のカタシボ竹林，兵生，3の5（1959）
〃　；六甲の自然（1959）
矢木　勉；六甲禿山の来歴，針路，24（1954）
山口　清司；加東郡野外植物目録，兵博，19（1940）
山島　吉五郎；兵庫県下の天然記念物，県博，5（1933）
〃　；六甲山，摩耶山植物目録（1937）
〃　；扇山の植物採集記と目録，県博，2（1938）
〃　；若狭浜菊について，県博，2（1938）
〃　；阪神地方帰化植物漫談，県博 3（1939）
〃　；赤西国有林植物採集記，県博，9（1943）
〃　；船越山植物採集記，県博 9（1943）
〃　；六甲山の植物（1944）
山本　茂信；丹後，但馬，因幡海岸地方の自然科学的考察（1950）
六甲国立公園指定促進連盟，六甲の自然（1955）

（56ページより続く）

又、生物教室は動的でなければならない。余り綺麗な状態でも、穢くてだらしないのもだめで、こう云うと何んとも難しいことと思われるでしょうが、毎日教師が課外活動の指導に、明日の実験の準備に、少しの時間でも教室内で過すと云うことです。この様に挙げますと限りがない程、いろいろの御教訓が想い出されるのであります。

今、手下にあります十数編の先生の別刷を再び開きまして、堂々たる内容の御研究物を見ます時、熱心な研究家よ、偉大なる教育者よ、もう十年は生きて戴きたかつた、惜しい方を失つたと痛切に思うのです。